

埼玉県保健医療計画に基づく病床整備計画報告書

1 整備計画概要

医療機関名	医療法人三愛会 三愛会総合病院
所在地	埼玉県三郷市彦成 2 丁目 342 番地
整備（増床）病床数	24 床
（医療機能別内訳）	20 床（急性期（一般））、4 床（回復期（地域包括ケア））

2 開設年月：令和 7 年 7 月

3 病床整備による地域医療課題への対応目標

○ 依然として救急受け入れに関する断り件数の改善は継続的な課題ではありますが、救急応需率は前年度比で+6.7%と改善傾向にあります。今後も救急医療の提供を通じた地域貢献のため、さらに応需率の向上が必要であると考えております。直近 5 月の救急応需率は 63%となっており、目標である 70%達成に向けて、総合診療科、脳神経外科、循環器内科を中心に医師体制の強化を図ってまいります。また、看護師やスタッフとの円滑なコミュニケーションを通じて、院内体制の整備と連携を一層強化し、積極的な救急患者の受け入れについて協議・推進してまいります。

4 他医療機関・施設等との連携・協議状況

年月	相手方	連携・協議内容
令和 7 年 5 月	名戸ヶ谷病院	当院循環器内科医師と名戸ヶ谷病院の医師は、過去に同じ医療機関で勤務していた経緯があり、良好な関係性が構築されている。現在、名戸ヶ谷病院では循環器内科が医師 1 名体制で診療を行っており、緊急対応が困難な状況にある。今後、両院で連携を進めることで、循環器疾患に対する積極的な受け入れ体制の構築や、術後のスムーズな退院調整が可能となることを提案する。 脳神経外科においても、医師間のネットワークを活用し、当院で緊急対応が困難な際には、名戸ヶ谷病院をファーストコール先として受け入れていただいている。今後も連携体制をさらに強化し、迅速かつ的確な救急対応が可能となるよう協議する。
令和 7 年 5 月	かわぐち心臓呼吸器病院	当院には現在、心臓血管外科医が不在であることから、循環器疾患で救急受け入れを行った際に、心臓血管外科的疾患と診断がついた場合の対応が課題となっている。心臓血管外科を有する医療機関と連携

		を図ることで、該当症例においてはオンコールにて対応いただける体制を整備する方針。緊急時には、同院より 24 時間体制でドクターカーによる患者搬送が可能となることから、医師または救命士が同乗して対応されるため、現場の負担軽減が見込まれる。近隣ではドクターカーの活用が比較的少ないこともあり、今後もこの連携体制をさらに強化し、迅速かつ安全な患者搬送と診療体制の構築を進めることを協議。
令和 7 年 3 月	八潮中央総合病院	八潮中央からの脳神経外科ホットラインの利用が多いことから継続的に良好な連携ができるよう協議。八潮中央にて対応が難しい慢性硬膜下血腫などの手術症例について、迅速に受け入れしており、術後の退院調整についてもスムーズに実施できていることを評価いただく。今後も緊急時の円滑な対応および患者の安全確保を目的に関係構築・連携強化を継続協議していく。

5 その他（地域での医療連携での取組、新型コロナウイルス感染症の影響など）

- 美なみ形成皮フ科（吉川市）院長と当院脳神経外科医との間で、顔面外傷症例の対応に関する連携について協議。当院医師より、「どの程度まで処置を行って紹介すべきか」との質問があり、先方と連携を図った結果、「仮縫合は不要で、圧迫止血のうえ診療時間内に搬送いただければ問題ない」との回答をいただき、具体的な対応方針が明確となり、円滑な地域連携が実現。今後も本症例のように、地域の医療機関と連携を強化し、適切な医療提供を通じて地域貢献に努める。
- 越谷市消防局を訪問し、今後の連携体制について協議を行う。近隣では材料費の高騰に伴い、さいたま市および吉川市における新規病院建設が相次いで中止となっている状況の中、当院が新築移転・増床の申請を行っていることに対し、「地域医療機関として非常に助かっている」との評価をいただく。
今後も地域の救急搬送体制を支える医療機関として、引き続き消防局との連携を深めるとともに、救急受入応需率の更なる向上に向けて協議・取組みを継続する。
- 吉川松伏消防組合 吉川消防署を訪問し、当院の救急受け入れ実績等について意見交換を行う。当院は管内で 2 番目に多い受け入れ実績を有しており、地域救急医療の一翼を担っていることを評価される。また、次年度より救急隊員の再教育実習の受け入れも予定しており、これにより搬送時のコミュニケーションの質向上や情報共有の円滑化が期待される。今後も、現場との連携体制のさらなる強化に向けて、引き続き協議・調整を進めていく。